

一般質問

9月 定例会

町づくり

どう取り組むか

住民参加型の町を目指す／町長



にしむら さくお 議員
西村 策雄

人口減を考えると、地域の維持と再生、構築が急がれている。

農林水産商工への取り組みは、関係機関との連携強化が不可欠である。現在JAと協議を重ねており、効果が発揮できるように取り組む。

漁業はハマグリ調査と、佐賀港へのカツオ船入港増、基金造成も視野に入れて検討している。

農業は若干衰退気味であったと考えている。施設園芸は環境保全型によって、付加価値を付けた取り組みを開始する。

佐賀地区のカツオの水揚げが始まって以来の不漁となっている。大方地区はモジャコの不漁で相当の減額となっている。

問 高規格道路の新規見直しがあり、拳の川、中角間がどうなるか不安定な状況にある。この状況を打開するためのアクションを起こす考えはないか。拳の川は高規格道路の下りの乗り入れ線が計画にないが、窪川のように56号線の改良併用で取り組めないか。

答 武政建設課長

関係地域の住民にご心配をお掛けしているが、前町長の時から国、県へ要望活動を行っている。

本年7月、町長が自動車道建設促進期成会の会長になったので、これを契機に町単独で、10月に高松の地方整備局へ早期整備要望に行く事になっている。

はふるさと創生活動資金で、英語力と人材育成を行うために、福島町長が提案し発足をさせた。

その後、佐賀中学校は高校大学への進学率が上がった。この国際交流を教育長はどう評価しているか。また今年の小中学校の学力テストへの評価はどうか。

答 坂本教育長

ニュージールランドへ、今年11名の生徒と4名の引率で訪問した。フェアフィールド中学校の受け入り態勢は良く、快く迎えてくれた。

日本語の通じない状況の中で、これまで学習をした自分の英語力を試す機会となり、個人の意欲にもつなげて行くことができたと思う。

経費の面では個人負担の減額を検討し、生徒に均等な機会を与えたいと思う。

学力テストについては、小中学生とも、昨年とほぼ同じレベルになっている。

問

町長は町内各地域で住民と懇談をしている。町内は地域の産業が衰退傾向にある。

農業、水産業の生産高は把握していると思う。問題があるとするれば、絶えず県からの情報提供を要望すべきと思うが、そのように対応しているか。

答

大西町長

松田 農業振興課長

谷口 海洋森林課長

少子高齢化、中山間地域の

高規格道路

高規格道路へ
新たな取り組みを

早期整備を
要望に行く
建設課長

国際交流

ニュージールランド
との交流促進を
個人負担減額を
検討したい

教育長

問

本事業は合併前、旧佐賀町